

昭和60年1月1日発行

J.P.C

謹賀新年



SUNBEAM
PERCUSSION

No.27

新年のごあいさつ

株式会社コマキ楽器社長 小牧正明



新年あけましておめでとうございます。

全国のJPC会員の皆様もお元気に新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

顧みますと、'84年は2月にDRUM・CITYがオープンした為に今までに例を見ない多くの方々がJPCに入会され、特にドラムセット関係の愛好者が大勢皆様の仲間としてJPCの会員になりました。

これからのパーカッション界を考えると、ブラスバンドだから、オーケストラだからドラムセットは関係ないという考えが通用しなくなりパーカッションをやると言えば、ティンパニをはじめドラムセットも鍵盤もラテン楽器も出来なければ……という時代になったと思います(もちろん得意・不得意はあるでしょうが)。その顕著な例が世界で最大のパーカッション愛好者の会である"PAS"という機関誌で、ロック・ジャズに関するものからマーチング・ラテン・クラシックに関するものまですべてを網羅しており、さらに一年一度のコンベンションには全世界から各分野の人々が一堂に集まり、各ジャンルのクリニックやコンサートを楽しむという、まさにパーカッションならではの幅広い会員の集まりです。現在、会員が7000人、その内今年のKNOXU-ILLYで行なわれた会には2000人近い人が集まったとの事、まさに「パーカッション万歳!」と思わず言いたくなります。JPCも一日も早くそんな会に成長し、日本中の各ジャンルの有名プレイヤーが一堂に会してのクリニックやコンサートに楽しい何日かをJPCの会員の皆様と過ごしたいと思います。

本年もJPCの為に宜しく御指導下さい。

明けましておめでとうございます!

今年は何をつかまえますか?! —社員一同—



○五十嵐正幸…管楽器担当。グラス傾けJazzを聞きながら「Yey!」酒乱も治ったし、今年はお嫁さん欲しいネ。



○石井まゆみ…ライブラリアンMiss Ishii&編集後記執筆者—M—。誰かひろって!



○伊藤一英…今年も自転車ボーソー族で学校めぐりをいたします。それにしても頭の上を風が吹く…。



○太田進…コマキ音楽教室の主任さん。とつても面倒見が良いので皆おんぶしてます。今年もよろしく。



○大場信子…ファン!何ようるさいわね!が得意のコマキ音楽教室受付嬢。今年は「純情」で追ろうかな。



○小笠原明広…アルバイトとしてやって来て早半年。もう少し楽器の知識を身につけたいっすね。



○小川オサ子…社員全員の母です。姉です。伯母サンです。真っ白な心を持ってらんです。今年も張り切っちゃうぞ!



○香取康二郎…ゴークイな笑い声のコマキ楽器第I営業部長です。今年もクイズに応募しまくろうかな…。



○川島千世…JPCにいるんです。社会人です。中学生じゃありません!今年も脱皮するゾ!



○黒沢幸一…(マルクロ)です。今年もこのハッピースマイルで皆様のお宅にお邪魔します!!ボーカルアンブ担当です。



○近藤真理…精神的にも経済的にも好転を見ぬまま無益に新年を迎えてしまったマコト君です。ムムム…今年こそは!



○佐藤親一…小・中学校をまわるたび、愛娘の行く末を考える…今年もとーちゃん頑張るよー!



○小牧修…卸担当のハニカミ屋の次長サン。今年も売り込み頑張るぞ!JPCにいます。



○堤和幸…ドラム・シティのボスです。去年男の子誕生。今年は少しでもいいから腹の肉を減らしたい!



○真岡幸男…打楽器のことなら何でも聞いて下さい。ティオカと申します。今年も身を固めます。



○南平史佳…眉間にシワのナンベイフミヨシです。JPCのボスですから。皆さん広告のご相談はお早目に!



○野崎淳子…社内最年少!コマキ楽器楽譜係。年の割には色っぽい。今年にはさらに磨きをかけるノダ。



○飛田恵三…今年も身を固めます。今年も体を柔らかくします。色んな意味で。JPCのネムリネコです。



○藤原敬日登…今年もソナー、プレミア一直線!ドラム・シティのジミー・タカヒトは、このワタクシデゴザイマス。

第2回 音大パーカッションアンサンブルの集い

12月16日(日)、芝ABCホールで「第2回音大パーカッションアンサンブルの集い」が開催された。

出演は季節柄定期演奏会のシーズンとあって、昨年の7校から2校減り、国立音楽大学、東京音楽大学、洗足学園大学音楽部、桐朋学園大学音楽学部、東京芸術大学音楽学部の5校だった。今回は邦人作品が多かったこと、学生が作曲域いはアレンジしていること、とまさに日本の音大生のパーカッションアンサンブルという色彩。さ

らに客席にセッティングしたり、ステージを駆け回ったり、照明効果を狙ったりといろいろな意味で広がりを持った演奏会だった。

演奏会終了後のレセプションでの抽選会は、予定の賞品に入っていないグロッケンやボンゴ、コンガ等のプレゼントが飛び入りして学生ばかりではなく、先生方まで大騒ぎ。

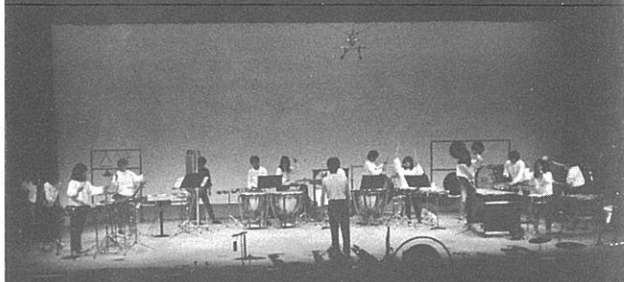
来年はどう発展するか楽しみである。



国立音楽大学 THE BEAT 小六禮次郎 作曲



東京音楽大学 MISSA FOR PERCUSSION ENSEMBLE
藤本隆文 作曲



洗足学園大学音楽学部 TOM-TOM-FOOLELY A. エーベル作曲
賛歌 菅野由宏 作曲



桐朋学園大学音楽学部 5人のマリimba奏者のための二章
田中利光 作曲
ケチャ 西村 朗 作曲



東京芸術大学音楽学部 ゲーム 小六禮次郎 作曲
IONISATION E. ヴァレーズ 作曲

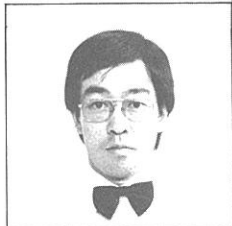


レセプション風景 ~飯倉“ニコラス”にて~

'84年第1回日本管打楽器コンクール

打楽器部門入賞者に聞く

昨年11月、第1回日本管打楽器コンクールが開催された。打楽器部門参加者38名。うち第一次予選通過者13名、第二次予選通過者5名。本選第1位中谷孝哉、第2位新谷祥子、第3位小谷康夫、入選者田辺由紀、小笹雅子の諸氏。日本で初めて行われた打楽器コンクール、ようやく打楽器界にも光が射し込んでくれた。そこで上位入賞者3名にマイクを向けてみた。



第1位 中谷孝哉(なかに こうや)
略歴：昭和30年9月19日生29才
5才よりマリンバを始める
昭和53年東京芸術大学卒業
昭和55年東京芸術大学大学院修了
昭和53年～58年パーカッショングループ72
に在籍 昭和52年結成以来東京マリンバンドメンバー
昭和59年日本フィルハーモニー交響楽団正団員
JXA特別会員…北原千鳥、朝吹英一、高橋美智子、有賀誠門各氏に師事
JPC NO.538

Q：何故このコンクールを受けようと思ったんですか？

A：きっかけその1。寄る年波！今29だから…。この前のジュネーブコンクールが駄目だったからここで何とか一旗上げれば。とか言って。きっかけその2。本選後の入賞者特別演奏会のバックが我新日本フィルハーモニー交響楽団であるから、それでできればいいなあと夢見た。きっかけその3。細かいことだけど、課題曲の中にマリンバの曲が多かったこと。海外のコンクールと比べてもマリンバに重点をおいているように見えたから。僕は、マリンバが打楽器の中で一番好きだし得意だから…。まあワタシが受けなければならぬという自らの使命感に燃えて…かつこイイネ(笑)。

嬉しいのは、新日本フィルの仕事をちゃんとしながらコンクールを受けて1位になったこと。オーケストラの仕事だけではなくて、まあ、芸術の秋で我々音楽家にとって一番忙しい時期ではありますが。いろんなことを全部やりながら限られた時間の中で何とか工夫して…。それが認められたことが嬉しいネ。でも、もっとうまい時間の使い方があったんじゃないかって反省もしてるけど。

Q：そういう状況の中で1位を取れたんだから大きな自信になったんじゃないですか？それからオーケストラに所属しながらソロやアンサンブルの活動をやる人は少ないですよ…。

A：自信というのは、ほんのチョベット…。変な自信がつく方がこわい。ある人が僕に、「オケマンが1位になってくれたことが一番嬉しい。今学生の間でオーケストラプレイヤーとソロプレイヤーは全く違うものだっていう悪い意識が通用してるから。」って言ってくれた。そういう意味でもこれから先続けていかなきゃと思いますね。

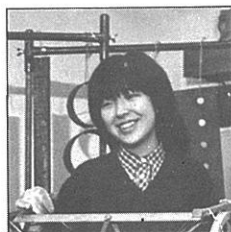
Q：衣装なんですけど、中谷さんは、ずっとラフな格好で通したそうなんです。何故ですか？

A：顔もラフですが(笑)。僕がオリジナルで作ったDr. スランプのアラレがよく発する台詞を英語に翻訳した文字をプリントしたトレーナーを着たんです。3色あるんですが、反感を買わないように一番派手な色は本選まで残しておきました(笑)。これには賛否両論あると思うけれど僕なりに主張したいことがありまして…。まず動きやすいという点ではセーターやトレーナーが一番なわけでしょう？上着があれば、袖やボタンが邪魔になっちゃう…。クツもスニーカーでやったし。これはB.D.のペダルの感覚をつかみやすい。まあ、自分の実

力を一番引き出せる格好をしたわけですよ。大体打楽器ってかなりスポーツでしょう？皆、かしくまった服装をしなくちゃならないというような義務というか隠れた習慣というか…。世間一般の既成概念で人を判断するなんてワタシは許さない！

Q：これからの希望は？

A：まずオーケストラのことをもっと勉強したい！そしてマリンバンドやソロを鼎立させていきたいですね。リサイタルも開きたい。皆が喜んでくれるようになりズム、メロディーを自分でマリンバやりながら、お囃子風にマルチパーカッションを取り込んでいくとか…。いろんなことが面白いんですよ。パーカッションっていうのは他の人から正しく評価され判断されるものでありたい。独走はさせたくない。そういう意味では僕は過激な発想を持ってない。ヴァイオリンの演奏を他人が聞いてイイなって思うのと同じような気持ちを打楽器を聞く人にも起こさせたい。それが僕が打楽器を通してやりたい音楽！



第2位 新谷祥子
(あらや しょうこ)
略歴：昭和36年11月10日生23才
14才より打楽器を始める
昭和59年3月国立音楽大学首席卒業、同時に武岡賞受賞
同年NHKFM洋楽オーディション合格
岡田知之打楽器合奏団団員
岡田知之、水野与旨久、高田みどり各氏に師事
JPC NO.1897

Q：コンクールを受けたきっかけは？

A：とにかく演奏したくて仕方がなかったんです。こういう経験は生まれて初めてだから自分にとって良いチャンスだなと思ったんです。時期としても3月に卒業したばかりで、すごく良いと思って…。それが動機といえは動機です。

Q：終わって今の心境はどうですか？

A：心境…。2位に入賞できたのは勿論嬉しいし、参加して有意義だったっていうのは感じますけど、人数がもっともっと多かったら良かったのになって思ってます。全部で30人くらいかな…。

Q：学生が多かったようですね。

A：そうなんです。もっと現場で活躍している人が参加するようなコンクールであってほしかったからそれも残念でしたね。どうしてバリバリでやっている人がもっと出なかったのかなって思うんです。そういう人たちの演奏を聞きたくてしよがなかったから…。

学生の時ではなくて卒業してからこのコンクールがあって良かったなって思ってます。いろいろハプニングがあったから、学生の時だったら経験ないからうまくいかなかっただろうな…。ハプニングっていうのは、一次の時なんですけど、S.D.のチューニングを完璧にしたのに本番のステージの上で一発たたいたらすごくすんだ音がしたんです。動揺を押さえて演奏終わって楽屋でひっくり返してみたら、裏のヘッドが

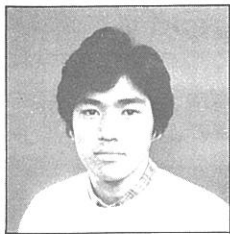
切れてたんです。冷汗モンでしたネ。この音、良い音だねってしてくれた人もいたんです(笑)。次は本選の時。Timp.をたたいたらどこかのS.D.の響き線がONになっていて共鳴しちゃったんです。セッティングミスかな、ヤバイなと思ったら、他の人のS.D.が鳴ってたんで少しはホッとしましたが、あれも動揺でしたネ。S.D.に悩まされてS.D.に終わったって感じ(笑)。

Q：打楽器ってそういうことがついてまわるんですよネ。ところで練習は充分にできましたか？

A：充分とは絶対に言えませんね。練習する場所と楽器がうまく具合にいかなくて、どうしよう、どうしようって考えてましたね。合奏団の演奏会もあったし…。学校の練習室や、合奏団の練習所やスタジオを借りて、少しも落ち着かなくて放浪の練習って感じでした。

Q：女性が2位に入ったっていうことは貴重なことだと思うんですね。ソロプレイヤーはいますけど、アンサンブルまでやっている人は少ないでしょう。これからの希望は？

A：時間かけてじっくり進みたいですね。合奏団で良い勉強をさせてもらってるんです。アンサンブルしながら良いプレー、というより自分の持ち味を見つけていきたい、誰も今までに出せなかったものを開拓していきたいですね。打楽器もっと研究されるべきだと思うんです。特に日本では。日本っていうのは海外に比べてレベルが高いとされてますから。現代曲も沢山初演されますし。ただ、作曲家ではなく演奏家ももっと新しいものを見つけなくちゃ先に進まないと思うんです。“楽器を沢山並べてその中から音を選び出すんじゃないかって、こういう音が欲しいっていう気持ちが先にあって次に楽器がある”っていうのが正解だって言う人がいるんですけど私もすごく同意するんですよ。他の人に身近に感じられるという意味で新しい分野にしていきたい。楽器よりも演奏者の精神的なものの方を見ていきたいですね！



第3位 小谷康夫 (こたに やすお)

略歴：昭和36年7月12日生23才
中学2年生よりドラム・セットを始める
昭和59年3月大阪音楽大学卒業
現在大阪音楽大学助手
山高良子、山高卓人、北野徹各氏に師事
JPC NO.4689

Q：コンクールを受けたきっかけは？

A：そうですね、新聞が何かでこれがあるって知って、友人に頼んで要項送ってもらって。何でもいから、とにかく目的っていうものが欲しかったんです。

Q：コンクールを受けてプラスになったことは？

A：ひとつの目的に向って練習することによって打ち込めるものがあつたっていうことですね。それから東京での打楽器、音楽の世界を見ることが出来た。何せ、京都と大阪の音大同志の交流が少いんだから東京なんてなおさらですものね。良かったと思います。

Q：コンクールの間ずっと東京にいたんですか？

A：いいえ。その度に東京大阪間を往復しましたよ。まあ飛行機に乗れば1時間位ですけど、はっきり言って疲れましたね。本番は緊張しませんでしたね、というか開きなっちゃって(笑)。本選の時が一番リラックスできたんですよ。

Q：これからの希望は？

A：こういうコンクールがあればもちろん受けたいし、ソロプレイヤー、オーケストラプレイヤー目指しますね。打楽器は、これからの音楽の中で主流になっていくものだと思うんです。僕はそれに役立つようなことをしたいですね。アンサンブルももっともっと広めて行きたいですね！

(JPCより…小谷氏とのインタビューは電話で行われたものなので短くまとまてしまいました。)

恒例 年に一度の コマキの決算 バーゲンセール



ギター、アンプ、スネアドラム、シンバル、キーボード、管楽器から打楽器、小物まで絶対に平常手に入らない価格で特別提供。しかも全て10〜24回クレジット付。

年末・年始営業時間のお知らせ

30日まで平常通り<10:00〜7:30>で営業致します。31〜2日までは休ませて頂きます。3〜5日までは<12:00〜6:00>、6日より平常通り<10:00〜7:30>で営業致します。



Drumcity

PREMIER, SONOR, LITE, PHONIC 日本総代理店
〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 武藤ビルB1F
電話 東京03(845)3044

●トータルミュージックショップ
株式会社コマキ楽器
〒111 東京都台東区雷門1-16-4
電話 東京03(842)6041〜5



●パーカッションプロショップ
ジャパンパーカッションセンター
〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 武藤ビル2F
電話 東京03(845)3041〜2

Drumcity 情報

西ドイツ・ソナードラム使用、日本のアーティスト、トップドラマーの紹介。

“あなたも今世紀最大のドラムメーカー、ソナードラムを試して下さい”

「ジャズ」

- ☆石川 晶 (石川晶とカウント・バッファロー)
- ☆石松 元 (前田憲男とウィンド・プレイヤーズ)
- ☆岩本龍夫 (岩本龍夫バンド)
- ☆小山太郎 (川上修・北島直樹トリオ)
- ☆鈴木孝廣 (テリー・ハーマン・トリオ)
- ☆ハナ 肇 (ハナ肇とサクステット)

「ロック・フュージョン」

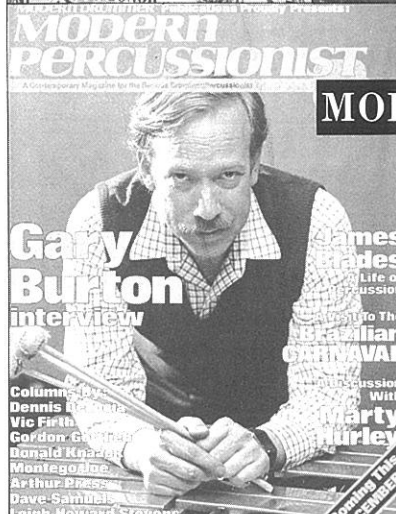
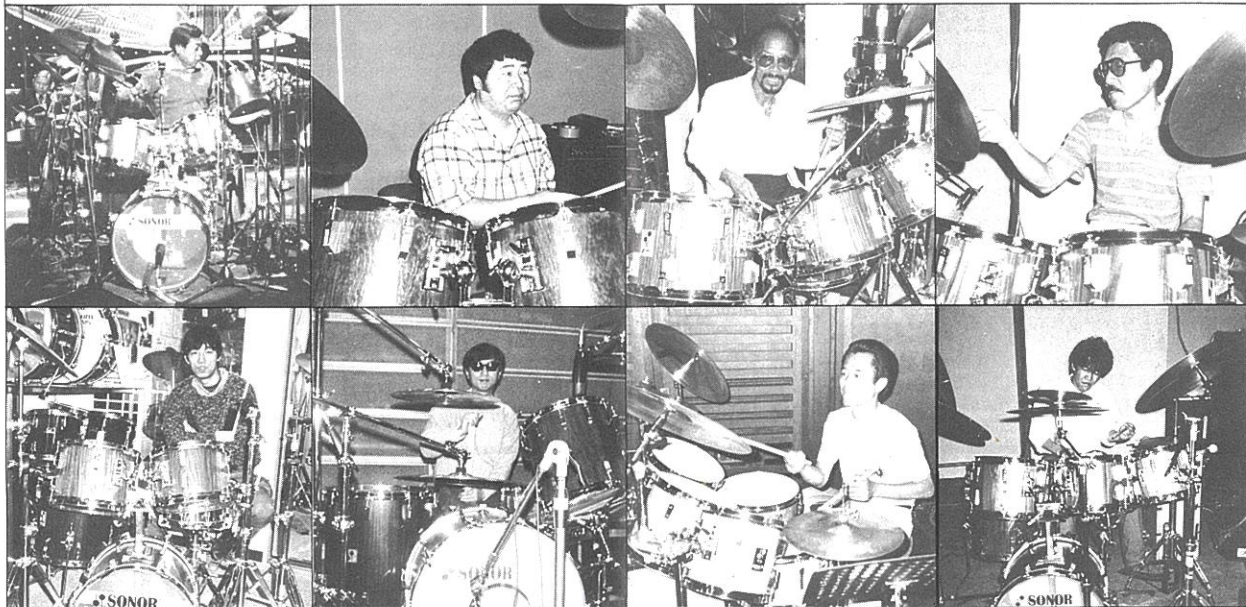
- ☆青山 純 (山下達郎バンド・マライカ)
- ☆鈴木俊次 (浜田省吾バンド)
- ☆多田牧夫 (松岡直也・是方バンド)
- ☆新井田耕造 (RCサクセッション)
- ☆宮崎まさひろ (高中・松下誠バンド)
- ☆林 立夫 (パラシュート)
- ☆長谷川浩二 (アルフィー)
- ☆山本秀夫 (香津美バンド・マライカ)

「スタジオ」

- ☆風間幹也
- ☆市原 康
- ☆田中洋行

(アイウエオ順)

※各アーティスト使用のドラムセットに関する問い合わせは、ドラムシティーまで。



MODERN PERCUSSIONIST 創刊!!

お馴染みの『MODERN DRUMMER』社より『MODERN PERCUSSIONIST』が創刊されます。主な執筆には、Vic Firth、Arther Press、Dave Samuels が当ります。

発刊予定は年4回(3月、6月、9月、12月)
創刊号は1月入荷予定
定価800円(送料別)

お求めお問い合わせはジャパン・パーカッション・センターまで

お年玉! しりとり

ビックプレゼント Q クイズ

☆解き方☆

あいているマス目に矢印の方向にしたがってシリトリをしながら解いてください。完成したら斜線のマス目の6文字にカタカナの“ム”の字を加えて組み合わせると、ある楽器の名前になります。これを答えとして書いて送ってください。

☆応募のきまり☆

官製ハガキに正解、住所、氏名、年齢、電話番号、JPCNoを明記のうえ、〒111 台東区西浅草1-7-1 武藤ビル2F「JPCお年玉クイズ」係宛お送りください。なお、JPCに対するご意見ご希望などありましたら、お書き添えください。

☆しめきりと当選者発表☆

- しめきり=昭和60年2月15日(金)必着
- 当選者発表=JPC会報No.28誌上

☆賞品☆

- 〈特別賞〉JPCタンバリンセット (1名)
 - 〈ソナー賞1〉オリジナルTシャツ (3名)
 - 〈ソナー賞2〉オリジナルスポーツタオル (3名)
 - 〈プレミア賞〉オリジナルTシャツ (3名)
 - 〈1等賞〉JPCタンバリン(10インチ) (3名)
 - 〈2等賞〉JPCマレットケース (5名)
 - 〈3等賞〉JPCトライアングルピーターセット (5名)
 - 〈JPC賞1〉JPCオリジナルミニバッグ (5名)
 - 〈JPC賞2〉JPCオリジナルメモ (30名)
- 当選者多数の場合は抽選にて当選者を決定させていただきます。

☆ヒント☆

- ①東京都23区の中で、高田馬場があるのは__区。
- ②月__よいとこ一度はおいで。
- ③本州と北海道の間にある海峡は？
- ④東京デイズニーランドがあるところ。
- ⑤房総半島南端近くにある崎は？
- ⑥『鬼無里』。さて何と読む？(長野県にある村の名前です)
- ⑦オホーツク海に面している大きな湖は__湖。
- ⑧別名カラス城といわれているお城がある市。⑦新幹線。東海道、山陽、東北、__。
- ⑨柳田国男著『__物語』。
- ⑩この平野には木曾川が流れてます。
- ⑪大和青垣固定公園にある道。
- ⑫九州を流れる川で、合唱曲の題名にもなっている。
- ⑬北海道最北端の市。
- ⑭沖縄よりずっと南の島。
- ⑮島根県の県庁所在地。
- ⑯比叡山にあるお寺。

1		9		斜線	8		7
	10	14				13	
			17		斜線		6
2							
	斜線		15		16	斜線	5
3	11						
			斜線			4	

(例)

1	タ	イ	2	コ	マ
---	---	---	---	---	---

INFORMATION

『第2回音大パーカッションアンサンブルの集い』ビデオテープ (Hi-Fi)、カセットテープ(PCM録音)を発売いたします。

価格	ビデオテープ 1校(約30分)	8,400円	カセットテープ 1校(約30分)	2,000円
	(VHS、ベータ共) 2校(約60分)	9,700円	2校(約60分)	2,600円
	3校(約90分)	11,400円	3校(約90分)	3,900円
	4校(約120分)	12,700円	4校(約120分)	5,200円
	5校(約150分)	27,800円	5校(約150分)	6,500円

ご希望の方は、ジャパン・パーカッション・センター(☎03-845-3041)までお申し込みください。



1.12月2日

中谷孝哉

(新日本フィルハーモニー他)

キーボード・パーカッション・フェア・スペシャル・クリニック第1弾は、第1回管打楽器コンクール打楽器部門第1位に輝き、また東京マリンパバンドはもちろん、新日本フィルハーモニーで活躍中の中谷孝哉氏である。

中谷氏は本号「Interview」でも紹介しているとおり幼少からマリンバを始めているので、キーボードは大のお得意である。自分が演奏する楽器の幅(音域)を把握する、という話からクリニックに入り、楽器によっていろいろなマレットを使い分けるとどのような音の違いが出てくるかを説明してくれた。また、ヴィブラフォンについてはペダリングと、ペダルは踏んだままの状態ですて音を消す方法を教えてくれた。

最後に『チャルダッシュ』やバッハのソナタを演奏してクリニックを終えたのだが、1時間の予定をはるかにオーバーしたにも関わらず、楽しくわかりやすい中谷氏の話に参加した人たちが皆、時の経つのを忘れていたようだ。



2.12月9日

増田一郎

(JAZZ VIBIST)

キーボード・パーカッション・フェア・スペシャル・クリニック第2弾は、Jazz Vibistとして長年のキャリアを持ち、最近では現代曲も手がけたりするという増田一郎氏。好きではなかったヴィブラフォンを必要に迫られて独学で始めたという、今やジャズ界の中堅である増田氏のクリニックは…。

まず、ちょっと見逃しがちなダンパーの調整方法と音を止めた状態で必要な余韻の長さを説明してくれた。ペダルを踏まずにたたいた時にマリンバのような響きが出ると良いそうだ。

演奏する際忘れてはならないことは、常に「腰を入れる」こと。マレットは重めのものを選ぶこと。思った時思った所で思うように音が出るからである。

練習方法のアドヴァイスの中に、ひとつのコードの中でいくらかでも遊べるようにする、というものがあつた。ひとつのコードを、ただ単純に弾くのではなく、例えば転回させたり、転位音を入れたり(例：コードがCの場合ドミソ以外の音)すると、曲の雰囲気が変わるものになるのである。さらにリズム・パターンも変えるも、簡単な童謡が、シャレたボサ・ノヴァになってしまうからすごい。

この他、ちょっとした個人レッスンをしたり、テープを聴いたりしてJPC初のJazz Vib.のクリニックを終えた。

●営業時間ならびに休業のお知らせ

- 1月1日 } コマキ楽器、JPC、ドラムシティ
- 2日 } 全店休ませていただきます。
- 3日 }
- 4日 } 12:00より18:00まで営業いたし
- 5日 } ます。
- 6日以降平常通り営業いたします。

- 2月1日 } 棚卸のため、コマキ楽器、JPC、
- 2日 } ドラムシティ全店休ませていただきます。
- 23日 } 定休日のため全店休ませていただきます。

3月23日 同上

表紙：ジャック・デジヨネット

昭和60年1月1日発行
 発行所 J・P・C・事務局
 〒一一一 東京都台東区西浅草一七一
 (武蔵ビル2F)
 電話 〇三七八四五三〇四二(代)
 郵便振替口座 東京九一五三二一五
 加入者名 (株)コマキ楽器

明けまして、おめでとーございます!!
 皆さんどこでお正月を迎えていますか?どんなカックコしますか?ひとりですか、ふたりですか?1984年の思い出袋はどっかいですか、ちっぽけですか?1985年の希望の風船は空を飛びますか、水の中に沈みますか?
 イヤア、私、テレビの画面にお邪魔しちつたんですよ、12月26日午前9時30分に、イズ番組でして、何とまあ奇蹟的に優勝しやいました。『西川のりお』を間違えて、西川のりお?なんて言ってヒンシュクでしたが、まあ結果は良かったんだから笑わないで。もう盆暮正月誕生日結婚式がイッキに押し寄せたようなバカ騒ぎをしまして、反省しました、いちいほど。
 それにしても、日本打楽器界もやっとな腰を上げたように、皆さんも胸を張って、練習に励んでください!入賞者3人のお話、通じ合うところがいくつもありますね。嬉しくなっちゃいます。何も打楽器だけに限らないと思えますけど、何かを見たり聞いたりして、素直に「ああ、いいナ。」と思うこの気持ち、大切ですよ。チャンチャラおかしいようですが、大切ですよ。イイモノを知らないやワルイモノを知ることはできませんからネ。
 去年、ちょっとイイモノを見つけた人は、それに水をやって陽に当てて育ててください。私は旅にでも出かけてチヨットイイオトコ、私じゃなかった。もう少しイイモノを見つけてきます。
 M

編集後記